

和歌山県美浜町 移住定住パンフレット

MIIJU



景色は毎日の癒し、贅沢な生活。

Photo by Yoshida family (p.5)

- content1 支援・制度
- content2 大江亮輔さん
- content3 片桐さんご家族
- content4 牛見さんご家族
- content5 吉田さんご家族
- content6 野口さんご家族
- content6 助言

支援・制度

空き家バンク
既存住宅状況調査
調査費用×1/2



5 最大
万円

空き家バンク
片付け補助金



8 最大
万円

浄化槽設置整備事業補助金
※詳しくはHPをご覧ください。

チャイルドシート購入助成
購入費用×1/2



1 最大
万円

小中学校給食費無料

移住支援事業補助金
東京圏から美浜町に移住した者が支給要件を満たした場合
・世帯100万円
・単身60万円
※18歳未満の世帯員がいる場合、1人につき100万円加算します。

空き家バンク
改修補助金



和歌山県：改修費用×1/2

100 最大
万円

Mihama Original!
美浜町：改修費用×1/4

50 最大
万円

※費用が200万円の場合、
自費は50万円となります。

わかやまLIFE



美浜町HP



エクストリーム 田舎暮らし.



和歌山県和歌山市出身—
おおえ・りょうすけさん

和歌山市でバーを経営していた亮輔さん。ずっと憧れていたドラマのビーチボーイズに登場する「民宿ダイヤモンドヘッド」をしたいという夢をかなえるためご親族が住んでいた美浜町に移住。昔から美浜町へ年一回は訪れており、宿を始めるなら三尾地区だと考えていたそうです。美浜町の移住受入団体であるNPO法人日ノ岬・アメリカ村での窓口となってくれています。移住して五年、今では地域の人が亮輔さんがいなければ困ってしまうくらい頼りにされています。



お店



特集



House / Shop



Chicken / Iseebi

昔から訪れていた美浜町。遊びに来ていた時から空き家と別荘の多さが気になっていた。亮輔さんが民泊をしようと家族や知人の協力のもと動き始めた時、美浜町商工会を訪れる。当時の経営指導員と地方創生統括官に、**三尾地区の国際的な部分と自然の環境、空き家の対策や活用について**プレゼンしたことから亮輔さんの熱い田舎暮らしが始まった。今では、町の地方創生事業の一環、アメリカ村食堂すてぶすとん、カナダミュージアム、遊心庵。その立ち上げの主要人物となっている。

立ち上げ時から運営もメディアへの出演なども表に立って活躍した亮輔さん。しかし、陰では多くの苦難が亮輔さんを襲っていた。「漁村は皆が魚を捌けるといふ思い込みがあったけれど、そうでもなくて、地元の人に働いてもらうレストランのメニュー開発に苦労した。当時は現役の若い移住者が少なく、信頼関係を築くのが難しかった」と怒涛の日々を振り返る。今では大学の地域活動の受け入れ、アメリカ村食堂すてぶすとんの調理、ダイヤモンドヘッドの経営などのマルチタスクを行っている。「宿をしているということもあり、地産地消を心がけるようになって、県内の日本酒にも詳しくなった。美浜町はちょうどいい田舎で生活面でも商売面でも不便がない。しかも不動産が安い。海が近いからサーフィンやSUPが手軽にできるのがいい」と移住後の変化を教えてくれた。田舎への移住を考える方へ「自然を舐めるな。家を買ったらすぐに保険に入ること。台風の威力が凄いから。あと、地域が狭くてお互いの距離感が近い分、はっきりとした人との距離感の線引きを示す必要があると思う」と経験を語った。

ちゅうどいいを 暮らす

大阪府大阪市出身—
かたぎり・ひでのりさん

和歌山県和歌山市出身—
かたぎり・かなさん

バックパッカーだったお二人。メキシコシティで出会った日本人のおじいさんの「死ぬ前に宿をしたい」という思いを受け継ぎ、現地でゲストハウスを運営していました。美浜町へ移住してから十二年が経った今、再びゲストハウスの立ち上げを計画中。「みんなでつくる宿」をテーマとして、シーガラスや流木を使ったアートなどで訪れてくれたお客様に思い出を残してもらおうことを願っている片桐さんご家族。「移住してからの農作業やセルフビルドなど、繋げられるところは繋げるし、ぜひいつでも相談して」



特集



お店

約十年前、ご夫妻それぞれの実家が近い近畿圏内で移住先を探していた。移住先は、畑作業とお店を両立するために買い物にも便利な町で、海と空の綺麗さを重視した。当時は空き家バンクや移住の支援などが何もなくあったため、旅をして、区長さんや地域の人に話を聞いていの中で今の家にとどり着いた。自給自足をベイスに生活している片桐さんご家族は「畑のお裾分けを頂けて、新鮮な魚が食べられるのが最高だね」とコミュニティの近さと自然の豊かさを感じて過ごしている。



House / Shop



Work

移住してからの変化は「綺麗な海が近いから、お塩を炊き始めたのが一番の変化かも。意外に海水浴場が近いけれど、年に数回しか行かないや」と移住する前に思い描いていた予想とは少し違った生活となった。田舎暮らしを始めた当初「子供が少なく、あまり外へ遊びに行けなかった」と集落ならではの人口の少なさを知ったそうだが「最近は一拠点の居住をする人が多くなってきて子供も増えた。三尾地区はバスでの通学だから、バス停で話せる子供が増えてうれしい」と住んでいて分かる変化を語る。片桐さんご家族は、移住当時について「支援とかが何もなく、大変だった。今は支援や私たちのような先に移住した人に話を聞ける環境が整ってきたから、いいなあ」と思い返して話してくれた。移住者のコミュニティについて伺うと、「地区の移住者と集まるとかは私たちが特にないけれど、他の地域の移住者はイベントでの出店先やマルシェ、お店に来てくれるお客さんで知り合っている人が多いかも」とカフェ営業しているからこそ繋がり方を教えてくれた。

夢未来

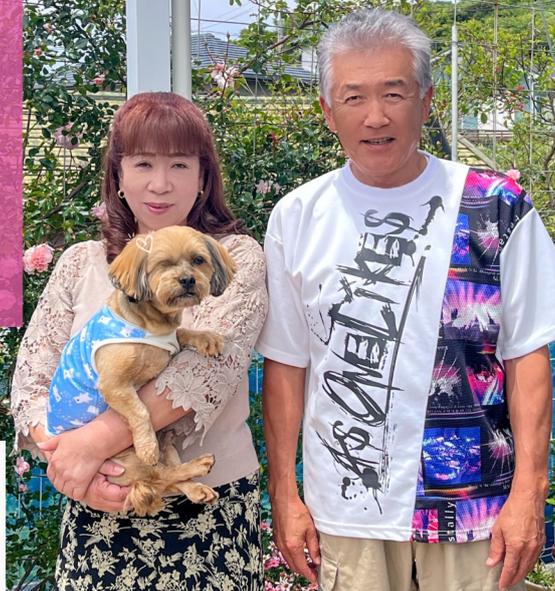
ゆめみらい

山口県防府市出身—
うしみ・てつこさん

六年前に五夫さんと移住。地域のひとと熱い想いを持ってまちづくりを行っています。鉄子さんの人に寄り添う前向きな言葉が、心のどこかで思っている自分自身の声と向き合わせてくれます。「人とのコミュニケーションはとても大事。移住前のご相談もぜひ、気兼ねなく」

山口県防府市出身—
うしみ・いつおさん

定年を迎える一年前に鉄子さんと移住を決意。ガーデニングや釣り、グラウンドゴルフなどを楽しむ日々を過ごしています。気さくな人柄かつ何事も自ら行動する男前な五夫さんに誰もがついていきたくになります。「移住先では心強いと思える人を見つけてほしい。いつでも相談して」



House



Garden



特集

南は九州、北は北海道に住んだ牛見夫妻。退職後、親隣の和歌山県で移住先を探し始める。そして五夫さんの趣味である釣りから美浜町を訪れた。不動産会社を紹介して出会った今の家。かつて鉄子さんがカナダのパンクバーで見た憧れの家と似ていたそう。広さは違うが、立地と雰囲気は縁を感じ、購入を決断。その帰りの道中、美浜町の景色に惚れ、終の棲家はこしかないと感じ、移住した。

「煙樹ヶ浜の西側から見える東の山並みが、額に切り取りたいほど綺麗。山並みが重なってグラデーシオンになる景色は見たことがない」と鉄子さん。一方、五夫さんは「逆方向の東側から見る岩肌がなんとも。山口でも海や山をいつも見ていたが、あの岩場は、また違う美しさだ」と話す。そんな二人は声を揃えて「今までいろんなところに行ったが、こんなにもハマった景色は見たことがない」と言う。山と海、それぞれ異なる方向から見た景色が、各地を訪れた二人の心に刺さった。

実際に住んでみて「食べ物などの地域にも負けていない。海藻からダシが取れることを初めて知った」「日照時間が長く感じる。本来なら一年中咲かない花が咲いている。庭いじりが冬でも苦にならず、本当に楽しく過ごせる」「病院が多いから安心して過ごせる」と実感したそう。牛見夫妻は「この地域はエネルギーをすごく感じる。ぜひ一度来てほしい。町とカナダに縁があるとは知らず移住したが、この縁をもっと全国に広めたい」と美浜愛を語ってくれた。

Busy Life



和歌山県和歌山市出身一
よしだ・まさゆきさん

大阪府豊中市出身一
よしだ・えみさん

元々はサラリーマンだった二人が、雅之さんの実家に近く、景色のいい海沿いの町へ移住することを決意。今では修行を経てカフェを営んでいます。雅之さんのほんわかした雰囲気と、ユーモラスな江美さんのしっかりしたアドバイスに、つつい二人には何でも話したくなります。「頼りになるかはわからないけど、いつでも来てよ」



特集



お店

四年前、コロナ禍がきっかけで雅之さんの実家から近い地域で移住しようとしていた。移住先を探し中に休憩で立ち寄った店（ダイヤモンドヘッド）。オーナーである大江亮輔さんが「今日はどんな用事で町にいられたんですか？」と話しかけてくれたことから移住の話が大きく進んだ。話が終わった後、「夕日めっちゃ綺麗だったな」と思い返す江美さん。この景色の近くで、何よりもこの人がいる地区に住みたいと強く思い、美浜町三尾地区への移住を決断した。



Coffee / Omusubi / Bagel



House / Shop

まずは美浜町和田地区のアパートを借りて二拠点で住み始めた。歩いたり、空き家バンクや不動産会社の情報をチェックして今の物件を見つけ、駐車場などの立地条件について大江さんとも相談し、購入を決断。しかし、家の状態はシロアリなどかなり劣化。家財の片付けなどにも時間がかかったそう。改修はDIYや業者と進めている中「この町でカフェをしたいな」と思い始めた雅之さん。実は以前からの夢であり、当時から修行を行っていた。そこで、江美さんを説得し、住居の一部をカフェとして改修することとなった。開業から数ヶ月経った今、地域の人に愛される店となっている。「田舎なのに、いや、田舎だからこそ忙しい生活の中で、見える景色は本当贅沢、すごく好き」と語る吉田夫妻。移住後、とても嬉しいと感じたのは「移居前、海が見える場所で住みたかった。町の人たちに相談すると、住んでみなければ分からない海沿いの大変さなどの話を細かく教えてくれた。町が小さいから役所も近いし、誰もがいつでも相談に乗ってくれる人との距離の近さがあるがたい」と伝えてくれた。

Enjoy Enju Life

三重県名張市出身—
のぐち・さやかさん

もともと和歌山には遊びに来ていた佐弥香さん。勤務していた大阪の会社を脱サラ後、ロケーションを重視して和歌山県内あらゆる場所を巡り、美浜町へどり着いたそうです。パワフルな笑顔と佐弥香さんの人柄で包まれるあたたかな空間で、相談するとなんでも本音で教えてください。



特集



お店



Shop



Burger



コロナ禍で都市に住む必要性が薄まり、テレワークで仕事ができる環境になったことから、大阪からどこかに田舎に移ろうと考えていた。その時に遊びに来ていた和歌山、そして煙樹ヶ浜に魅了され、素敵な海のおかげで暮らしたいと思った。「移住先の第一条件は海の近く。自然に囲まれつつも利便性があるか。その条件が一致し、さらに中古物件も見つかった」ということで移住を決定。移住したのならせっかくだからお店をしたいという思いがきっかけで移住から少ししてCS Diningをオープン。

「この地域の人は余所者に対する壁は少しあるかもしれないけれど、壁がなくなった後の優しさやほどよい距離感がちょうどいい。近くにあるカフェのしおさいが私たちにはアットホームな空間で憩いの場。そこで地域に溶け込めた」と思い返す佐弥香さん。移住するためにはまずは物件探しということで、アパートを借りて二拠点生活中に空き家バンクや不動産屋の情報をチェックし、現在の家を購入。その際にはわかやま移住定住支援センターにも相談して慎重に移住を検討されたそう。美浜町に住んでから思ったことが「地域の人がどれだけいい財産を持っているか気づいてほしい、日常に海があって、山があって、車で数分圏内に行政があって、スーパーやドラッグストアが多くある御坊市が近く。大阪にいて和歌山は白浜が高野山、那智くらいを知っていたがこんなにもいい地域が他にもあることをアピールしてきたい」と語ってくれた。最後に美浜町の最大のアピールポイントを伺ったところ「中学生までの給食費が無償で子育て世代にはとてもありがたい。子育て世代にはすごく助かる地域だからぜひ来てほしい」

田舎暮らしの助言

自然が近いから
季節の手仕事
がたくさんできる。

夏は暑いけれど秋が長く暖かい。
海遊びもすぐできるし、
何より空と星が綺麗な場所。

風が強い
あとは羽蟻発生は
年に1度の恒例行事。

海沿いならでの問題。
でもそれを上回るいいことは
もちろん人のあたたかさ。
野菜、魚などの旬なものを
いただけるのはありがたい。

車は必須だし
意外とのんびり静かに
暮らせない。

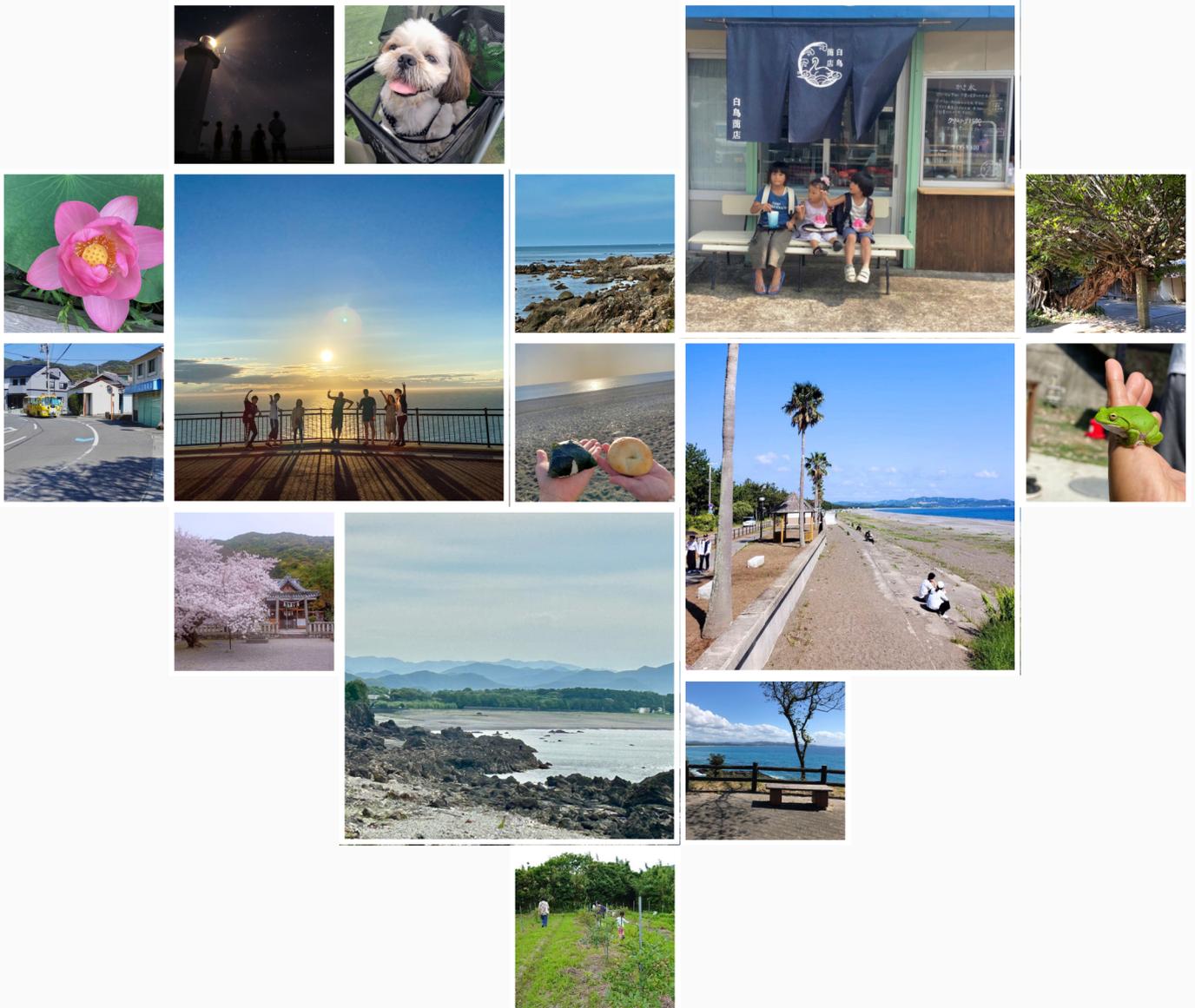
無理して全員と仲良くなる必要は
ないけれどキーマンは抑えること。
行事ごとにも積極的に参加。
何事も面白いと思えなければ
移住する意味がない。

地元の人たちが
地域を守っていたから
私たちが来れた。

地元の人たちを理解することから
始める。
いろんなことを聞いたりする
コミュニケーションが大事。

ゴミ出しは
明るい時間帯に。

夜道はイノシシなどが出現する。
見たことがない虫もいるけれど
動物が一番怖い。
人も一緒かも、
いい噂もよくない噂もすぐ回る。



ちいちゃい町、美浜。

低山、広大な海と大松林、空には満天の星。
 海沿いに咲くたくさんのひまわり。
 買い物と病院で困ることなし！
 ぼちぼち便利な田舎。
 人との付き合いもちいちゃい町だからこそ。



美浜町役場
防災まちづくりみらい課

TEL : 0738-23-4902

E-MAIL :
iju@town.wakayama-mihama.lg.jp

〒644-0044
和歌山県日高郡美浜町和田1138-278